
調査

鯨金団

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】 調査

【コード】

N2833K

【作者名】

鯉金団

【あらすじ】

地球を調査にやって来た宇宙人トムの調査記録

「こちらトム、進入成功」

私は地球という星にやって来た宇宙人、名をトムと言う。

現在、地球を支配している人間という生物に関する情報を集めるため「虫」と呼ばれる生き物にそっくりな機械に乗って、人間の巣にやって来た。

「生活水準は中の下といったところだな、床はこの星の植物を材料に使っているらしいな。あれは何だ」

巣を調査していると、緑色の怪しげな物が床一面に広がっている場所を見つけた。

「ふむ、あんなもの見た事が無い、採取して宇宙船で調べよう」

床に広がったそれに生命反応が無かったため、床に着陸した。

「毛のような物が出ているな、それに何かの欠片がそこかしこにある」

全てを持ち帰るほどの力が機械には無かったため、当初の目的のみを果す事にした。

「む、どうしたというのだ」

採取を終え、飛び立とうとすると緑の物が機械の足に引っかかり、飛ぶ事が出来なくなっていた。

脱出しようともがいていると、ブオオオオと恐ろしい音が聞こえてきた。

しかし、その正体を突き止めようにも上手く方向転換が出来ない。

「なんだ、何が起こっている」

機械が後ろに引っ張られる、きつとこの音の仕業だ。

脱出を試みていると、急に視界が狭まった。

「な、捕まった」

エンジン全開で外に出ようとするも、それ以上に吸い込みが強い。

この吸引力はブラックホールに近い物を感じる。

「そうか、この星を支配している人間はブラックホールを作れるほどに高度な科学力を持っているのか」

盲点だった、私はすぐに宇宙船に連絡を入れる。

「私だ、トムだ、この星を支配している人間は、私達では太刀打ち出来ないほどの科学力を持っている、至急撤退するべし。私は奴らのブラックホールに吸い込まれてしまった、もう駄目だ」

報告の途中に私同様に吸い込まれた物体が機械にぶつかり、機械が壊れてしまった。

直そうにもコックピットが開かない。

諦めていると、恐ろしい音が聞こえなくなった、代わりに人間の話し声が聞こえた。

翻訳機を作動させる。

「お母さん、掃除機のパックの替えてどこにしまったっけ」

(そうか、このブラックホールはソウジキという名前なのか)

終わり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2833k/>

調査

2010年10月9日13時47分発行